

龍江の残土処分計画・これまでの主な経緯

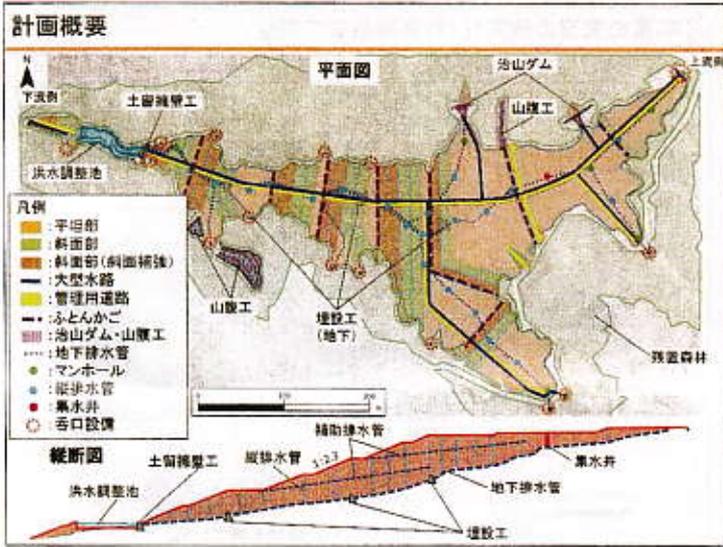
令和3年2月末現在

年月	内容
平成25年 11月	飯田市から市内各まちづくり委員会あてに発生土の活用先を照会 (留意事項として、公的事業以外は借地契約とし造成後は所有者が管理すると明記)
〃 〃	龍江地域づくり委員会から飯田市に候補地を提出 (沢埋め4か所、洞埋め1か所、受入時期は「いつでも可。」と記載し位置図を添付し要望)
平成26年 7月	JR東海が長野県から候補地情報を受領 (龍江地域づくり委員会→飯田市→長野県→JR東海へ)
〃 12月	JR東海が龍江地域づくり委員会役員の了承を得て、環境調査に着手
平成27年 1月	JR東海が龍江地域づくり委員会に計画の検討を進めることを説明
〃 3月	JR東海が地権者に計画の検討を進めることを説明
〃 〃	JR東海が地区代表者に計画の検討を進めることを説明
平成28年 1月	JR東海が龍江地域づくり委員会に造成計画を説明
平成28年 6月	JR東海が地権者に造成計画を説明 (借地契約とし、工事終了後は土地を返却。今後の測量や地質調査を要望)
平成30年 4月	龍江地域づくり委員会、龍江地域協議会からJR東海に道路改良等の要望書を提出
平成31年 (令和元年) 4月	JR東海が地権者及び候補地に隣接する土地所有者に変更後の造成計画を説明 (跡地利用の協議に向け地権者協議会の組織化を要望)
令和元年 6月	JR東海が清水沢川流域住民(2区3区民)に造成計画を説明 (初めての住民説明会。安全性に対する数々の懸念や不安の声が噴出)
〃 8月	JR東海が龍江地区住民に造成計画を説明 (安全対策のほか、計画の中止や反対意見、地域での合意形成を求める声)
〃 9月	住民組織『龍江の盛土を考える会』を発足し、以降有識者とともに計画を検討
令和2年 3月	当会から龍江地域づくり委員会に「候補地計画の再考。」を要望
〃 8月	龍江地域づくり委員会が「龍江地区JR埋め土対策委員会。」を設置
〃 12月	当会から飯田市及び上記龍江地区2組織に「候補地として不適當。」と申し入れ

龍江の盛土を考える “豆知識”

豊丘村本山候補地の永続管理事例をご紹介します
 源頭部の谷埋め盛土でさえも、**維持管理を永遠に徹底しないと大災害が!**

R2.6 保安林解除に伴う長野県森林審議会(保全部会)で説明されたJR東海の資料より (当会で傍聴)



維持管理

<造成後の管理>

- ・本山発生土置き場は森林に復帰することを予定しています
- ・観測・設備点検・保守・残置森林・異常時対応の頻度・期間等を含めた詳細は、地権者及び豊丘村とJR東海が協議を行い確定させます

○ 観測

- ・盛土内水位観測、盛土の動態観測、雨量観測、発生土置き場最下流部の流量観測の実施

○ 設備点検

- ・設備の目視点検、カメラ等を用いて地下排水設備点検の実施
- ・植林した木の育成状況確認

○ 保守

- ・排水路清掃、洪水調整池淤滞の実施
- ・地下排水設備点検の結果、異常が確認された場合は地下排水管の清掃の実施

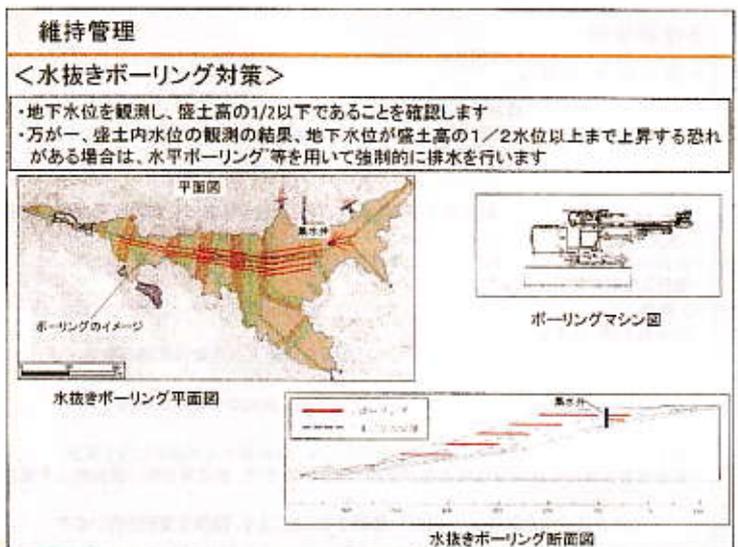
○ 残置森林等

- ・協定に基づき、維持管理計画書を作成し、開伐等を計画的かつ適切に実施

○ 異常時対応

- ・地下水位の上昇が確認された場合、斜面部または、集水井から水抜き対策を実施
- ・発生土置き場内の維持管理用道路が使用できない場合は、索道等を用い資材搬入を実施

発生土置き場を集約し、一元的に管理することにより、確実な管理を行います



造成後の管理の重要性 ご理解頂けたでしょうか?

● ● **盛土内地下水の上昇が最悪の事態を招きます** ● ●

豊丘村でも不安を抱える住民の方々が、事業展開を憂慮し大きな問題になっています

地権者も 未来永劫 安全管理責任が伴います (>_<)

各分野の先生方からは

- 龍江の候補地は、論外・あり得ない計画 -

龍江では、他に類を見ない広大な集水域をもつ河川を埋めつけることや軟弱な地盤、流域に集落が存在することから、候補地選定の防災条件として不相当です。河道を埋める基準さえありません。

平坦な土地を望む反面、非常に危険なお荷物を抱え込むことを理解しましょう!

住民の犠牲のうえに地域振興はなく、地域の安全が最優先課題です。誰もが安心して暮らせる地域づくりが大切と考えます。

『龍江の盛土を考える会』

会長 林平吉 ほか役員一同

龍江地域の将来のために、共に考えてくださって誠にありがとうございます
 これまでに、多くの皆様や複数の地権者の方々から計画を否定されるご意見を頂いています